

夕陽會報



裏夜景 (S31年卒 須藤 三男 氏撮影)

第183号 総会特集号



◇ 退任ごあいさつ ◇

夕陽無限好

前会長 安島 進

平成六年七月二日（平成六年度総会）会長に就任、爾来五期十年間の長きにわたり、皆様のご支援を戴いて会長の職を続けてまいりましたが、この度の総会で川島孝夫新会長に無事バトンタッチすることができ、心から感謝しております。

会長就任の年の六月十一日、母校は創立八十年開学四十五周年を祝い、今年六月十二日には、母校創立九十年開学五十五周年を祝いましたが、奇しくもこの間の十年と重なります。

時恰も母校は大学改革の途上であり、この四月から国立大学法人となり、平成十八年度からは新構想による教養系学部として、キャンパス経営を実施するべく教育理念や教育内容などの構築が急がれ、母校は大きく舵を切ったといえます。

私は北海道第二師範学校時代の出身（二十四年卒）で、川島新会長は戦後の新制大学のご出身（三十一年卒）ですから、そんな意味合いにおいても世代の交代と一つの転換期を迎えたと思えます。

幸いにして平成十年八月八日を期して、夕陽会創立八十周年記念事業（夕陽フェスティバル）を手懸けることができ、会員皆様の熱い想いによる物心両面に互る協力の下に、事業委員の総力を挙げて取り組んだ夕陽会発展の足跡の集約と二十一世紀にはばたく夕陽会の発展を願って、各種事業を実施することが出来、これらを契機として後世に引き継ぐことができました。

今や各支部の集会では、この八十年

を記念して制作された夕陽会旗が掲げられ、夕陽讃歌と伝統の寮歌を共に歌うなど、会員の和みと意識の高揚に一役かって親しまれています。そのような場面に接するにつけ、共に汗した往時の思い出と共に感動を覚えます。

また、大きな世紀の変わり目にも直面し、夕陽会としても変貌の激しい時代に生きる会員の行動指針を「創造し行動する夕陽会」とし、新世紀幕開けの総会を札幌支部挙げての協力を頂いて、道都札幌で開催、九百名にも及ぶ参加者で盛会を極めたことも忘れ得ぬ思い出となっております。

また、各支部への訪問によって、支部ごとの歴史と伝統による特色ある運営や夫々の地域に生きる会員皆さんの活躍を目のあたりにし、改めてその多様性を認識し、本部事務の有り様を反省した次第です。それに付けても思い出されるのは十勝・帯広支部の中川庄作先輩（二十四年卒）の「本部から会長が来ると母校をより身近に感じる」の一言です。訪問の意義と役目を改めて自覚した次第です。

在任中の十年間、広く、多様な機会を戴いて会員の皆様と出会い、共に語らい、取り組みを通じて若さと刺激を戴くことができ、大変幸せでした。

最後になりましたが、共に汗して下さった前松本幹事長、現藤川幹事長をはじめ歴代の本部事務局員の皆様にお礼と感謝を申し上げます。ご支援有難うございました。

顧問・参与会

五月二十五日(火)五島軒駅前支店において、第六回役員会に引き続き、瀬川直光顧問(昭和十九年卒)、田島隆参与(昭和二十八年卒)等の参加を得て顧問・参与会が開催された。

中瀬裕義副会長の司会進行により開始冒頭、安島会長が挨拶をされ、財政事情から、各専門部の努力等について話された。ついで、総会議案審議に入り、会務報告では、ホームページ更新作業が進められていること。会計報告に続き、運営方針推進事項では、市町村合併からんだ支部組織の改編や母校学生のスポーツ芸術活動への支援等が話され、総会議案の審議を終えた。

次に、安島会長より母校の現状について縷々説明され、最後に役員改選の原案が示された。大幅な役員改選となり安島会長の十年にわたるご努力に大きな拍手をもって、この会を終えた。

大懇親会

於 函館国際ホテル



顧問・参与会



全国支部長会議

全国支部長会議

夕陽会総会に先立って全国支部長会議が二十六名の代表の参加を得て開催された。総会議案等が審議され、組織強化や財政事情の説明を受け、母校の現状報告、支部毎の取り組みが交流された。

尾島、中瀬両副会長の司会進行で議事が進められた。会務報告、会計報告と続き、会費納入会員の減少傾向が取り上げられ、組織強化のための工夫が必要であり、市町村合併による支部組織再検討と合わせて、会費納入会員数の増加に努めるよう話し合われた。

次に、各支部の活動交流となり、苫小牧市支部からは、支部活動PRチラシが披露され、活動の工夫が報告された。釧路支部からは、若い人の集いや女性の集いを持ち若い世代を確保する報告があった。最後に示された役員改選原案が拍手をもって承認され、安島会長の「長い間ありがとうございました」で終えた。

総会・大懇親会

新体制スタート

六月十九日(土)午後四時より、平成十六年度「夕陽会」総会が函館国際ホテルにおいて開催された。

安島会長の挨拶に続き、札幌支部の青柳史匡支部長、空知連合の松田潔支部長を議長に選出した。議長団挨拶の後、議事録署名人、役員選挙委員、記録者を選出し議事の審議に入った。

報告事項では、藤川幹事長から会務報告、谷村財政部長から十五年度会計報告、松田会計監査から監査報告があり、全会一致で承認された。



挨拶される安島会長

続いて、安島会長から懸念されている母校関係の報告として、「昨年九月に決定した改革の基本方針によると、函館校は新しい教養系学部としてスタートする方向にあり、学生数等については作業部会で具体構想を練り、十八年度をめどにまもなく中間発表がある。また、今年四月一日に全国の国立大学が法人化となり、母校の名称は国立大学法人北海道教育大学函館校、分校主事は副学長函館校担当という呼称になった。予算運営面はかな

り厳しいものがあるが、地域と共にある質の高い大学教育が期待されている。母校は、開放性の教員養成に通常よりもプ

ラス初等教育教員養成も加味し、小中高の教員養成実現が可能である。母校の独立行政法人化後の新体制として管理運営に関する経営協議会に安島会長が参画している。」とのことが話された。



新体制で挨拶される川島新会長

協議事項に入り、平成十六年度運営方針並びに推進事項について幹事長から提案がされた。昭和二十四年卒で母校の名誉教授の尾形猛氏より、母校の研究教育への支援を盛り込んで欲しいという要望があり、人的なものではなく、予算を伴うものについては来年度に向けて検討することになる。次いで、財政部長より平成十六年度予算案が提案され、全会一致で承認された。

本年度は本部役員改選の年である。役員選挙委員長の川合渡島支部長より選挙結果が発表され、全会一致で川島会長の下、新体制がスタートした。

《夕陽会本部役員》(新〇)

- 会長 ○川島 孝夫 (昭和31年卒)
- 副会長 ○塩崎 設男 (昭和43年卒)
- 副会長 ○石戸 大機 (昭和42年卒)
- 副会長 ○門脇 正和 (昭和42年卒)
- 副会長 野田 義成 (昭和32年卒)

平成16年度 夕陽会総会

平成16年6月19日

- 副会長 尾島 梯介 (昭和34年卒)
- 副会長 ○笹原 克哉 (昭和42年卒)
- 副会長 中瀬 裕義 (昭和34年卒)
- 副会長 奥寺 恒夫 (昭和17年卒)
- 副会長 ○中谷 匡利 (昭和42年卒)

- 幹事長 藤川 隆 (昭和48年卒)
- 副幹事長 類家 直人 (昭和51年卒)
- 副幹事長 ○須藤 由司 (昭和52年卒)
- 副幹事長 土谷 敬 (昭和54年卒)
- 監査 今野 久男 (昭和30年卒)
- 監査 松田 明雄 (昭和30年卒)
- 監査 ○五百川 忠 (昭和32年卒)

旧役員を代表し安島前会長から「役員歴の長短はあるが、これまで賜ったご支援ご協力に厚くお礼申し上げます」と挨拶があり、会場全体にこれまでの感謝とねぎらいの絶大な拍手が鳴り響いた。

最後に新役員が会場前列に並び、代表して川島会長から「安島会長始め歴代の会長が夕陽会を愛しその発展にご尽力いただいたことをお手本に、本会の発展と母校の支援に新役員、本部役員共々力を合わせてがんばって参りたい」と力強い挨拶があり、川島新体制への熱い期待に溢れた満場の拍手で総会を閉じた。

(昭和49年卒 北昭和小学校校長 秋元 順一記)

新たな出発の集い 大懇親会

心に潤いを与える夕陽賛歌が静かに流れる函館国際ホテル天平の間は、総会に引き続き全体司会の類家直人本部副幹事長(昭和50卒)の進行により、来賓各位の入場を五十九卓・六百名を越す会員の拍手でお迎えし、新たな出発への懇親会という副会長の言葉で平成十六年度の夕陽会大懇親会が開幕しました。

今年度、本部役員改選により新たに会長に選出された川島孝夫会長(昭和31卒)より、五期十年にわたり会長として会をまとめてこられた安島前会長へのねぎらいの言葉と顧問としてこれからも会の発展にお力をおかした、ただることへの感謝の言葉がありました。また、会長として今後、全会員の力を結集して夕陽会を振興していくことについて力強く述べられました。

来賓の挨拶では、石井直樹函館市収入役から安島前会長の労をねぎらう言葉を送り、合併後の新しい函館市の構想、そして、水産海洋都市として発展をしていくためにも人づくり、教育の振興が重要な課題であることから、夕陽会の力添えを今後ともいただき、夕陽会のさらなる発展を祈念すると述べられました。西村守渡島教育局局長からは教育大学創立九十周年を祝う言葉があり、夕陽会が北海道の教育の一翼を担ってきた高い業績に対して、今後とも、期待したいと述べられました。

北海道教育大学の奥田亨副学長からは、大学創立九十周年行事を行うにあたっては夕陽会の多大なる協力があったことに

感謝するお話の後、教育大学改革の中、新たな学部構想を推進していくためのスタート地点に立った状況で今後とも、夕陽会の力を借りながら母校の新しい姿をつくる決意が述べられました。

土谷敬本部副幹事長(昭和54卒)の祝電・祝詞披露の後、恒例の音楽科卒業生を中心とした合唱団による校歌・学生歌が会場に響き渡り雰囲気も一気に盛り上がってききました。

岩村八雲町教育長の「新たな体制での出発を祝して乾杯」との発声で祝宴が開かれました。

会場内は、あちこちで再開を懐かしむ熱気が充満し、青春時代を語り合う姿が見受けられ、ひととき盛り上がり、ところで、新入会員九名が壇上上がり、自己紹介をしました。安島前会長から、新入会員に期待する激励を受けました。

その後、安島前会長から、会長を去るに当たって、五期十年間を振り返ってのお話をいただきました。とくに、平成十年夕陽会創立八十周年の時のことが印象的で今でもその時のことが鮮明に残っているとお話をいただきました。また川島新会長の下、夕陽会発展のため一致団結して邁進してほしいとお話を聞きながら、参会者全体が今までのご労苦に感謝して万雷の拍手で意を表しました。

宴も佳境に入り、恒例のエンディングですが、今回は、このために



安島前会長の謝辞



大音声でエールを送る澤田氏

苦小牧からいらした澤田佳典先生(昭和53卒)石脇正彦先生(昭和56卒)が会長を去られる安島先生へ送るエールをおこないました。



新入会員紹介

会場全体を巻き込んだ感謝のエールとなりました。時間も残り少なくなり、諸先輩方が恒例の揃いの法被姿で登壇。細田辰男顧問(昭和11卒)の号令の下、トリを飾る寮歌にはいり、会場全体が大合唱に包まれました。

余韻が覚めないまま、最後の乾杯に移り、金山教育長の「新たな旅立ちへの期待を込めて」と宴を閉じました。最後に、石戸大機本部副会長の閉会の言葉で大懇親会も盛会裡に終了しました。

(昭和49年卒 旭岡小学校校長 伊勢 昭記)

平成十六年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

- 1 組織強化と運営の効率化
会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と運営の効率化を図る。
- (1) 各界の会員動態の把握と広報活動の充実。
- (2) 今後の会組織の在り方の検討(新学部構想に対応した会組織の在り方の研究。市町村合併等による支部組

織の再編)

- (3) 教職外会員及び高等学校支部、特殊教育諸学校支部の強化。
- (4) 女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。
- (5) 本部と各支部、各ブロックとの連携強化。
- (6) 夕陽会報183、184、185号の発行。
- (7) 母校及び函館に関する情報の積極的な提供。
- (8) 夕陽ホームページの充実と活用。

- (1) 会員である道・市町村議会議員、首長等との連携。
- (2) 関係機関・団体に所属する会員との連携。
- (3) 各支部研修活動の支援。
- 3 財政の確立と業務の効率化
活発化する活動の維持・発展を図るため、財政の確立と財務の効率的な推進に努める。
- (1) 財政基盤の確立と諸会費納入の促進。
- (2) 財政業務の効率的处理。
- 4 研究の奨励と文化事業の推進
会員による個人及び共同の研究等を奨励し、特に若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。
- (1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。
- (2) 会員による文化事業等の奨励。

- (3) 第八回夕陽音楽会の開催
- 夕陽教育フォーラム、教育講演会等の開催。
- 5 母校への支援
母校の発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。
- (1) 大学の地域連携 社会貢献への支援
- (2) 会員予定者に対する意識の啓発。
- (3) 就職対策関係事業への支援。
- (4) 学生のスポーツ・芸術活動への支援
- 6 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・充実
各種記念資料等の収集と適切な保存、陳列の充実を図る。
- (1) 記念資料等の収集。
- (2) 館内外の環境整備、陳列品の整備。
- (3) 会員の作品収集と目録補遺(夕陽会報)発行。

会務報告



幹事長
藤川 隆
(昭和48年卒)

《一般会務》

- 3・6 函館校教授と安島会長、藤川幹事長が大学改革等について懇談する。(函館)
- 6 平成16年度版会員名簿作成委員会に安島会長・藤川幹事長が出席する。(函館)
- 12 10 夕陽会報第182号を発行する。第四回本部役員会を開催する。(函館)
- 22 第八回夕陽音楽会実行委員会に安島会長・藤川幹事長が出席する。(函館)
- 4・19 奥田 亨副学長(函館校担当)

- 24 平成15年度会計監査を行う。(函館)
- 24 顧問・参与会を開催する。(函館)
- 6・12 25 函館校創立九十周年記念式典に安島会長・本部役員等が出席する。(函館)
- 19 19 全国支部長会議を開催する。平成16年度本部総会・懇親会を開催する。(函館)
- 19 19 奥田 亨副学長(函館校担当)と川島会長・藤川幹事長が懇談する。(函館)
- 4・17 21 《支部総会・祝賀会・個展等》
函館市支部総会に安島会長・藤川幹事長が出席する。(函館)
札幌市支部総会に安島会長が出席する。(札幌)

- 24 上川支部総会に安島会長が出席する。(旭川)
- 24 空知連合支部総会に中瀬副会長が出席する。(岩見沢)
- 24 釧路支部総会に藤川幹事長が出席する。(釧路)
- 26 渡島支部八雲支会総会に須藤副幹事長が出席する。(八雲)
- 29 十勝・帯広市支部総会に土谷副幹事長が出席する。(帯広)
- 5・7 室蘭市支部総会に須藤副幹事長が出席する。(東室蘭)
- 8 渡島支部総会に安島会長が出席する。(函館)
- 8 石狩支部総会に中瀬副会長が出席する。(札幌)
- 8 小樽市支部総会に藤川幹事長が出席する。(小樽)
- 15 後志支部総会に藤川幹事長が出席する。(倶知安)
- 21 苫小牧市支部総会に安島会長が出席する。(苫小牧)
- 21 渡島支部七飯支会に藤川幹事長

- 22 檜山支部歓迎会に藤川幹事長が出席する。(江差)
- 27 函館市支部新会員歓迎会に安島会長・藤川幹事長が出席する。(函館)
- 27 渡島支部大野支会総会に類家副幹事長が出席する。(大野)
- 28 渡島支部上磯支会総会に土谷副幹事長が出席する。(上磯)
- 6・12 23 楽友会昭和31年卒同期会に祝意を表す。(函館)
- 23 昭和19年卒同期会に祝意を表す。(函館)
- 25 森支会総会に川島会長が出席する。(森)
- 25 渡島支部福島支会総会に類家副幹事長が出席する。(福島)
- 25 渡島支部砂原支会総会に藤川幹事長が出席する。(砂原)
- 30 渡島支部知内支会総会に川島会長が出席する。(知内)

感謝！そして、ご慰労を！

知内町教育長 松本 征八

このたび五期十年の長きに渡って夕陽会の舵取りを担ってくださった安島先生に心から「ありがとうございます」。そして「お疲れさま！」の言葉を贈ります。

歴代の諸先輩が築いた「行動する夕陽会」は、「平成」という変化の激しい時代に入り、さらなる発展が求められていました。平成六年、安島 進先生は夕陽会第八代会長に就任しました。

着任まもなくいくつかの事業に取り組み、その一つ一つがその場の思い付きでなく、「新時代における同窓会の有り様」を求め、しかも万機公論に決すべし、の動きでした。中でも、「会則検討委員会」

「八十周年記念事業委員会」での指導力発揮は、今日の夕陽会の「かたち」「こころ」であり、何よりも忘れることができません。常に一万数千の会員を意識し、

全道、全国に出かけ「母校のその後、函館の香り、本部の思い」を丁寧に報告、提案する姿は、多くの会員の胸に焼き付

いています。安島会長就任から幹事長として薫陶を受けたものとして今しがたのように次々と思ひ出されます。意を体

することができず、もたつくばかりでしたが、何よりも「どうせ仕事するなら、嫌々でなく、どうおもしろうとするか」のひと言は、固定的な言動にとらわれず「常に何かある」の気持ちで、どれもこれもおもしろくできました。会長退任により、心残りは、八十周年記念祝賀会会場で「九十周年はもとより、百周年は若い皆さんの手で、しかしその席を共にして祝

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部 類家 直人(附属小副校長)

- 1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録。
- 2 文書の收受、発送及び保管。
- 3 会員の慶弔事務。
- 4 その他、庶務に関する事。

財政部 谷村 誠(東山小長)

- 1 通常会費の徴収、支出事務。
- 2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務。
- 3 予算書、決算書の作成。
- 4 その他、財政に関する事。

組織部 土谷 敬(附属中副校長)

- 1 支部組織の編成と組織強化対策。
- 2 会員の動態調査の実施(支部別、校種別会員名簿)。

情宣部 藤川 潔(日吉が丘小長)

- 3 支部役員名簿の作成、会員名簿(平成十四年度版)の作成。
- 4 インターネット委員会の夕陽会ホームページの作成とその管理。
- 5 その他、組織全般に関する事。

文化部 大川富美男(西中長)

- 1 会員の文化活動に対する支援。
- 2 文化事業(音楽会・美術展・書道展等)の企画、実施。
- 3 その他、文化に関する事。

研修部 武田 隆雄(駒場小長)

- 1 会員の地位向上対策。
- 2 会員の個人及び共同研究への助成。
- 3 支部、ブロックにおける研修活動に対する支援。
- 4 その他、研修に関する事。

厚生部 安保 勝順(北星小長)

- 1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施。
- 2 記念資料及び会員の作品収集。
- 3 夕陽記念館の整備、充実。
- 4 その他、厚生に関する事。

受賞(章)おめでとうございます

春の叙勲

(瑞宝双光章)

- 平埜昭太郎 氏 昭和二十二年卒
- 小樽市梅ヶ枝町一一の五
- 毛内 善三 氏 昭和二十二年卒
- 浦河町東町ちのみ四の一の一

平成16年度版会員名簿の発行と夕陽会ホームページの更新について

平成16年度版の北海道教育大学夕陽会「会員名簿」ができあがりました。各支部等を通じて会員の皆様には、近日中にお届けいたします。

名簿作成に当たって、会員の異動、消息等の情報を提供いただきました各期代表者、名簿作成者、各支部の支部長・幹事長様をはじめ、会員の皆様の多大なご支援とご協力に衷心より御礼を申し上げます。

また、夕陽会ホームページも新しいコンピュータ委員会の皆様のご尽力により、刷新されました。これまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられました。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

<http://www.sekiyou.org/>

会員名簿とホームページの充実を図ることが組織部の最大の使命と考えております。それぞれの情報のもつ役割とその価値について改めて御理解をいただき、今後とも組織部への変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

組織部長 土谷 敬 (昭和54年卒)

平成十六年度 夕陽會本部役員名簿

會長 函館市深堀町35-24 川島孝夫

副會長 函館市立八幡小学校校長 塩崎設男

函館市立深堀中学校校長 石戸大機

七飯町立大中山小学校校長 門脇正和

遺愛女子中等高等學校校長 野田義成

函館市湯川町2-43-13 尾島梯介

上ノ国町立上ノ国小学校校長 笹原克哉

札幌市西区福井2-3-25 中瀬裕義

三沢市中央町3-10-24 奥寺恒夫

青森第二高等養護學校校長 中谷匡利

幹事長 函館市南北海道教育センター所長 藤川隆

副幹事長 北海道教育大学付属函館小学校副校長 藤川隆

北海道教育大学付属養護學校副校長 須藤由司

北海道教育大学付属函館中学校副校長 土谷敬

總務 函館市の場町25-13 高橋正雄

函館市深堀町38-38 辻高橋

上磯町字押上2-3-10 山柿三夫

函館市榎本町4-5 高井信行

函館市柏木町2-17 田中久

函館市北美原2-13-12 信田利之

函館市住吉町17-18 池上信廣

函館市榎本町6-20 繪面和子

函館市桔梗町4-5-6 網野重治

代表支部長 函館市立の場中学校校長 小山内武弘

七飯町立峠下小学校校長 川合正芳

代表支部長 函館市立の場中学校教頭 田野中川敏

大野町立島川小学校校長 野川秀雄

監査 函館市中道1-28-1 今野久男

顧問 森町字森川町303-61 松田明雄

北海道教育大学副学長函館校担当 函館市花園町5-10 五百川忠

函館市花園町40-13 奥田亨

上磯町常盤1-13-3 西村賢三郎

浦河町常盤33 上田嘉一

東京都東久留米市学園1-13-4 川村清一

札幌市南区真駒内緑町3-5-3-701 三枝三郎

函館市五稜郭町41-9 浅井好二

函館市杉並町23-7 細田辰男

函館市柏木町4-20 瀬川直光

名古屋市東区東校2-3-3 安島進

函館市柏木町36-19 萩原忠臣

函館市杉並町13-3 小笠原公助

函館市千歳町27-3 深澤剛

函館市本町22-23 小川公也

函館市船見町2-18 加藤彬

函館市の場町24-15 鈴木幸一

函館市東山2-17-8 高坂藤吉

函館市美原1-29-10 北川省吾

函館市豊平区西岡4-5-5-8 山口弥一

札幌市南区川沿1条4丁目9-3 上元啓紀

国分寺市本多2-3-5 国分寺コーポラス 大場光行

函館市梁川町22-2 竹野栄

函館市松陰町3-24 西谷富士雄

函館市元町4-7 藪田幸作

東京都杉並区下高井戸5-19-1 八木幸夫

函館市本町20-13 木下邦茂

名東陽吉

函館市川原町13-2 大坂昭雄

函館市亀田本町53-5 中村勉

函館市銭亀町245-39 赤泊昭吉

函館市深堀町40-11 山尾正

札幌市西区発寒7-5-11-30 山素水

札幌市東区伏古7-2-4-35 中山治雄

函館市柏木町31-5 町田治

函館市戸倉町19-12 三上正巳

函館市戸倉町19-15 吉田巖

大野町本町740-15 青田正彦

函館市亀田本町19-6 尾本金治

函館市中央区北2西21-2-17 田島隆

知内町字元町301 杉山利夫

七飯町字大中山3-303-21 大淵亮三

函館市中道1-12-11 尾本金治

函館市厚別区厚別東2条4-10-3 奥尻町教育委員会教育長 山内脩介

函館市見晴町9-8 青野昌勝

木古内町教育委員会教育長 小澤勲

函館市東山1-11-2 小浅梯司

函館市湯川町2-34-3 札内征男

函館市赤川町497-4 長谷川進

函館市大川町4-43 シヤトム大川 辻俊治

上磯町教育委員会教育長 山田富雄

函館市柏木町16-6 田中則夫

函館市教育委員会教育委員長 田中俊也

函館市中道2-2-3 北林秀男

函館市神山3-18-20 永谷潤一

函館市山の手2-36-7 森野重雄

上磯町常盤1-20-1 磯部正博

上磯町谷好2-5-18 藤谷利春

函館市深堀町2-8 高村昭三

札幌市厚別区大谷地東5丁目1-15 守山和男

函館市赤川町57 中山征士

函館市富岡町1-12-14 小笠原征愈

函館市教育委員会教育長 金山正智

函館市松陰町25-36 山内洋三

函館市美原2-26-9 石岡博心

奥尻町教育委員会教育長 奥尻町教育委員会教育長 山内脩介

札幌市厚別区厚別東2条4-10-3 青野昌勝

函館市見晴町9-8 小澤勲

木古内町教育委員会教育長 小浅梯司

函館市東山1-11-2 札内征男

函館市富岡町2-39-9 笹原志郎

函館市深堀町18-3 吉田恵悦

函館市日吉町1-22-23 橋田恭一

七飯町字大沼297-9 森下英治

函館市中道2-2-18 渡利正義

乙部町字栄浜48 中川眞一郎

南茅町教育委員会教育長 石坂新一

函館市川原町18-2-405 古旗英捷

知内町教育委員会教育長 松本征八

函館市深堀町14-29 齊藤孝

函館市深堀町7-16 長谷川任

函館市手稲区金山2-1-6-2 伴達夫

八雲町教育委員会教育長 岩村吉男

恵山町教育委員会教育長 加藤弘

江別市大麻中町26-18 大藤コーボ 小本毅

函館市富岡1-12-12 田村志朗

平成十六年度支部役員名簿

(札幌市)

長 青柳史匡 札幌市 柏中長
副 藤原昂 札幌市 美香保小長
幹 山本和昭 札幌市 山鼻中長
副 佐々木良則 札幌市 篠路西小長

(石狩)

長 市川軍治 北広島市 大曲中長
副 坪田幸志 北広島市 広葉中長
副 櫻田政雄 江別市 祝梅小長
幹 西家健悦 江別市 大麻小長
副 内昌直 北広島市 豊幌小長
会 竹内昌直 北広島市 大曲東小長

(後志)

長 鍋田秀雄 蘭越町 蘭越中長
副 小野克彦 岩内町 岩内中央小長
副 寺憲雄 蘭越町 蘭越小長
幹 川西正博 倶知安町 倶知安中長
副 新井三男 蘭越町 倶知安西小長
会 新井三男 蘭越町 蘭越小頭

(小樽市)

長 後藤幸夫 小樽市 緑小長
副 田高邦夫 小樽市 高島小長
副 小山克満 小樽市 量徳小長
幹 清橋義史 小樽市 祝津小長
会 小林稔史 小樽市 銭函小論

(上川)

長 石川博美 旭川市 知新小頭
副 井上松博 旭川市 末広小論
副 近藤初美 士別市 下士別小頭
幹 森將人 旭川市 末広北小論
会 清杉陽一 東川町 東川小論

(宗谷)

長 間瀬元 稚内市 稚内港小長
副 谷藤芳弘 稚内市 礼文小長
副 池田忠喜 稚内市 豊富温泉小長
副 大野敏隆 稚内市 礼文香深井小頭
副 山坂修隆 稚内市 利尻小長
副 野口礼文 稚内市 神崎小長
幹 島田勇 稚内市 富磯小長

(留萌)

長 秋葉之 羽幌町 羽幌小論
副 熊倉仁弘 増毛町 増毛小論
会 澤田志 留萌市 湖静小論
副 熊田重昭 北檜山町 太檜小長
副 五十嵐淳一 今金町 今金小長
副 吉田俊正 江差町 江差中長
副 吉田正 熊石町 雲石小長

(渡島)

幹 花田雅博 江差町 日明小長
副 安藤信男 上磯町 上磯小長
副 守田君子 砂原町 峠下小長
副 川合正芳 七飯町 本別町
幹 小川秀雄 大野町 長万部中長
副 藤枝勝雄 長万部中長 島川小長
会 小川英知 知内町 知内小頭

(函館市)

長 小内武弘 函館市 的場中長
副 伊藤皓嗣 函館市 あさひ小長
副 青木完二 函館市 指導室長
幹 田中潤子 函館市 的場中頭
会 林潤子 函館市 亀尾中頭

(空知連合)

長 松田潔 浦臼町 浦臼中長
副 吉田喜一 三笠市 三笠中長
副 笠原利博 夕張市 夕張中長
幹 石井秀樹 夕張市 緑陽中長
会 南條正宏 夕張市 南美沢中頭
会 南條正宏 夕張市 清水沢中頭

(胆振連合)

長 木村正裕 伊達市 伊達中長
副 渡辺輝夫 登別市 幌別東小長
副 波田幸雄 登別市 幌別西小長
副 堀田幸隆 登別市 緑陽中長
幹 宇野敏昭 登別市 西陵中長
会 藤田祐之 伊達市 稀府小論

(苫小牧市)

長 大坪弘介 苫小牧市 大成小長
副 村上龍喜 苫小牧市 植苗中長
副 村上龍喜 苫小牧市 啓明中長
副 川端明 苫小牧市 弥生中長
幹 長堀秀規 苫小牧市 澄川小頭
会 反保規 苫小牧市 澄川小頭

(室蘭市)

長 今泉昌三 室蘭市 八丁平小長
副 西泉勁介 室蘭市 武揚小長
副 佐々木哲弘 室蘭市 常盤小長
副 八田由紀 室蘭市 大沢小頭
幹 水谷裕司 室蘭市 知利別小長
会 太田憲明 室蘭市 知利別小頭

(日高)

長 佐藤光雄 静内町 高静小長
副 中村道明 三石町 三石小長
副 保科昭三 静内町 静内中長
副 鳥井政也 門別町 富川小長
幹 久保田達也 浦河町 浦河小頭

(十勝)

長 田中信宏 士幌町 士幌町中央中長
副 平山正男 豊頃町 茂岩小長
副 金子正章 幕別町 古舞小長
幹 安藤治久 鹿追町 瓜足小長
会 久末光範 本別町 佐幌小長
副 藤田久 新得町 佐幌小長
長 森戸春樹 帯広市 豊成小長
副 高橋正紀 芽室町 白樺学園高論
会 河合昇男 帯広市 つつじが丘小頭
副 花井豊 帯広市 豊成中論

(釧路)

長 高野英弥 柏木町 柏木小長
副 若狭博光 浜中町 琵琶瀬小長
副 金濱孝志 厚岸町 太田小長
幹 佐々木幸生 鶴居村 阿歴内小中長
会 野呂大幸 釧路市 下久善呂小長
副 西大幸 釧路市 鳥取西中論

(根室)

長 荒井道夫 中標津町 養老牛小中長
副 三好哲世 別海町 中春別小長
副 小好二己 別海町 上西春別小長
幹 小野寺宏二 別海町 上風連中長
会 打川真由美 中標津町 中標津東小論

(網走連合)

長 岡康二 上湧別町 上湧別中長
副 恒吉浩路 北武町 小泉中長
副 小藤浩生 雄武町 雄武小長
幹 齋藤房昭 紋別市 藻別小長
会 高田英昭 上湧別町 上湧別小長

(高等学校)

長 野田義成 函館市 遺愛女子高長
副 北川能典 函館市 函館大谷高長
副 村山昭二 江別市 とわの森三愛高長
副 宮下勤 函館市 函館大付属柏稜高長
副 近藤暢男 札幌市 札幌聖園高長
副 穴水信正 旭川市 旭川北都商高長
会 黒田千彦 森町 森高長
会 中田千彦 網走市 網走向陽高長

(特殊教育諸学校)

長 岩尾正夫 小樽市 小樽聾学校長
副 二本柳隆通 岩見沢市 岩見沢高等養護学校長
副 木村宣孝 七飯町 七飯養護学校頭
幹 矢野由司 札幌市 札幌養育センター室長
会 志藤克美 函館市 教育大学附属養護学校副校長
会 志藤克美 函館市 教育大学附属養護学校部理事

(青森津軽)

長 中谷匡利 青森市 青森第二高等養護学校長
副 白取清彦 青森市 筒井小頭
副 川村裕司 青森市 青森市教育委員会

(青森西北五)

幹 湯田秀樹 八戸市 八戸市
副 工藤幸子 青森市 青森市
副 高橋宏彰 金木町 金木小
副 野上四郎 中里町 北津軽郡中里町田茂木字登宮1933
副 今村修治 木造町 向陽小
幹 木村治 鱈ヶ沢町 舞戸小論
会 長谷川州子 鱈ヶ沢町 舞戸小論
会 長谷川州子 鱈ヶ沢町 舞戸小論

(青森南部)

長 永井俊明 八戸市 八戸市
副 金谷誠也 八戸市 八戸第一養護学校論
会 小笠原一男 八戸市 八戸市
副 日沼良和 能代市 能代市
副 黒沼樹 山本町 山本中論
幹 近藤誠輝 能代市 能代市
副 藤誠輝 能代市 能代市
副 藤誠輝 能代市 能代市

(岩手)

長 川梯三郎 盛岡市 盛岡市
副 山崎徳吉 盛岡市 盛岡市
副 遠藤宏吉 花巻市 花巻教育事務所
副 山口祐子 宮古市 宮古市
幹 山田道明 宮古市 宮古市
会 晴山よし子 盛岡市 宮古市立千徳小論
会 晴山よし子 盛岡市 宮古市立千徳小論

(宮城)

長 武井晃 松島町 松島町
副 鈴木晋 多賀城市 多賀城中長
副 鶴木教生 米山町 登米郡米山町字核岡新田2-1
長 日置哲朗 さいたま市 与野八幡小頭
幹 坂本博道 深谷市 深谷市上野台345-7
会 村上由則 大宮市 蓮沼小

(千葉)

長 杉本征年 中央区 中央区
副 西谷隆 浦安市 浦安市教育長
副 飯田敏雄 習志野市 習志野香澄小長
幹 近藤弘 松戸市 松戸松見台第二小長
副 藤澤美樹彦 浦安市 堀江中長
会 嶋岡和則 浦安市 浦安中

(東京)

長 奈良吉彦 東村山市 北山小長
副 本間昭彦 東久留米市 東久留米市前沢2-11-5
副 西崎弘 日野市 第八小長
幹 伊藤隆一 世田谷区 中丸小長
会 巨勢陽江 中野区 花畑小論
会 巨勢陽江 中野区 花畑小論

(山梨)

副 伊藤順一 山梨区 山梨区
副 伊藤順一 山梨区 山梨区
副 伊藤順一 山梨区 山梨区
副 伊藤順一 山梨区 山梨区
副 伊藤順一 山梨区 山梨区

就任ご挨拶



任重くして……

会長 川島 孝夫

(昭和31年卒)

六月十九日の平成十六年度総会におきまして、五期十年間の長きに亘り常に先頭にたつて力強いリーダーシップを発揮され、多くの困難な状況を見事克服され、本会の前進を作り上げて来られた安島会長の後任として指名され、会長に就任しました昭和三十一年卒業の川島でございます。

もとより力不足の私でございますが、幸い副会長はじめ有能な正副幹事長、そして優秀な附属校スタッフの協力を得ることが出来、大変心強くこの方々と力を合わせ新しい時代にふさわしい夕陽会の発展を目指して行きたいと思っております。

平成六年以来、今日まで体調の不調をも省みず高い識見と豊かな経験を見事に駆使され今日までご尽力くださいました安島前会長と傍で支えてこられた奥様に会員を代表し心より感謝申し上げます。

この十年間は夕陽会にとって激動の十年間でもありました。この間、国立大学法人化に伴いキャンパス再編を迫られた母校に教養系の学部ではありますが初等教育教員養成機能も合わせ保持できるよう働きかけ、教員養成の道が残るよう尽力くださいました。また、常に組織強化に心を配られ体の不調を省みず各支部の会合に出席され、地方会員と親しく膝を交え、夕陽精神の高揚を訴えて来られま

した。更に女性役員の登用・「夕陽ホームページ」の立ち上げ等、先を見越した運営にご努力をされてこられました。

中でも歴史的事業となった平成十年八月八日、創立八十周年を記念し行われた「夕陽フェスティバル」が盛大に大成功裏で行われたことは安島前会長の夕陽会を想う熱き心の表れでもありました。

こうした実績と強い指導力を持った安島前会長の後任として指名された私にとっては「任重くして心重し」の気持ちで一杯であります。ご指名をいただいた以上、これも天命と思ひ皆様のご協力をいただき伝統ある夕陽会発展のため力の限り努力していく所存ですのでよろしくご支援・ご協力をお願い申し上げます。

さて、同窓会の意義やその在り方についてはさまざまご意見があるかと思ひますが、何れの同窓会も発足の原点は仲間内の親睦活動からスタートし、次のステップとして会員相互の共栄共存関係を図るようになり、更には学恩をいただいた母校に対しての支援組織として成長して来たものと考えられます。

本会も発足の原点を時折振り返りつつ周辺の変化に対応しながら「創造し行動する夕陽会」を標榜し、役員諸氏と力合わせ、会の運営に努力してまいりたいと考えておりますので宜しくお願いします。



念いを熱く

監査 五百川 忠

(昭和32年卒)

平成十六年度夕陽会総会において監査の大役を仰せつかりました。任の重さに身の引き締まる思いでございます。再任されました経験豊かなお二人の監査からご指導を受け、さらには川島会長をはじめ、本部役員、会員の皆様方のご支援をいただきながら責務を果たしてまいりたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

「創造し行動する夕陽会」を指針とした本会の活動も、各界にわたる会員の組織化、若手会員の運営面における積極的参加、さらには研究・研修会の開催、各種文化事業の推進など、内容の充実とともに、相互の連携がますます深まっております。それは、会員一人一人が、夕陽会に対し無量の感慨を込めていることに他ならないからであります。

本来比較すべき質のものではありませんが、初めて夕陽の集いに参加した頃とは、支部の組織やその他に違いはあるものの、懇親会などにおける伝統的に培われてきた熱気溢れる雰囲気は、今も昔もいささかも変わることなく頼もしく思っている次第です。

さて、四月から全国の国立大学が国立大学法人としてスタートしました。今、北海道教育大学もこの動きの中で将来構想基本方針を定め、教育組織を改編し、明確な機能分担システムを持った新たなキャンパス体制転換への具体的内容が検討されております。その中で函館校には、

教員養成課程は設置されませんが、教養系の新課程を集約し、さらに開放性の教員養成機能は組み込まれるということになっております。

このような状況になれば、卒業生の動向にもよりませんが、現実問題として夕陽会の会員の減少につながりはしないか懸念される所です。それだけにならないこと、毎年行われていることではあります。新会員への意識の啓発や、さらには、会費納入会員の拡大に努める一方、財政の効率的運営などがこれから特に重要になってくるものと思われま

時代の流れをくみ取り、諸々の変革は必要なことではありますが、先見の明と確かな行動力、そして「夕陽会」という同窓の熱い絆があるからこそ、いかなる波をも乗り越えられるものと確信しております。

今年度の総会において、永きにわたる会長として夕陽会の隆盛にご尽力いただきました安島進会長が勇退されました。これまでのご指導に心から感謝を申し上げますとともに、今後とも顧問としてご指導いただけることは大変心強いことでもあります。

そして、川島孝夫会長のもと新体制が発足しました。いろいろな課題が提起されている中、母校と夕陽会の発展を共に願って、どんな形で会長を支えていくかを自らに問いながら努力してまいりたいと存じます。

就任にあたって



副会長 笹原 克哉

(昭和42年卒 上ノ国町立上ノ国小学校長)

この度、副会長の大役を仰せつかり身を縮めております。いかにも分不相応であり、心落ち着かぬ思いをしております。川島新会長様はじめ皆様のご指導の下、微力を尽くしたいと願っております。母校を卒業し、三十八年目を迎え、教職の残り一周をすずに走り出してまいります。来し方を振り返るとき、自身に同窓意識があまりにも稀薄であったと思ひ返します。もし、そのことを意識する瞬間があったとするなら、それは一種の懐かしさからであり、敬慕の念からではなかつたかと思うのです。それは、父も兄弟も同じ小道を歩いたのだという懐旧の念で

あり、前安島会長様(檜山で指導主事をなさった)はじめ、先輩諸氏の識見と人間味溢れたご指導に紡ぐ思いでした。しかし、周回の最後に手練り寄せる日々は、同窓の方々の温もりと励ましに満ちた無言の記憶を蘇らせるのです。それは、問い、求めるばかりであった己の卑小さを教えるのです。今日あるのも同窓に連なるがゆえであったのだと。問うのではない、同窓の絆を紡ぎ、次代に架橋するために問われる者として立つべきであったのだと。それは、所詮「過渡」の役割でしかないのですが、父も兄も、そして多くの先輩、同輩もまたそうであり、その集積が歴史を紡ぐことであつたことに改めて思い至るのです。

夕陽の先輩の築いた歴史を後輩に引き継ぐ「過渡」の役割を胸に、皆様の教えを請い、任を果たしたく願っております。

就任にあたって



副会長 門脇 正和

(昭和42年卒 七飯町立中山小学校長)

日本の教育改革のうねりの中で、国立大学の在り方が大きな変容を余儀なくされていきます。大学の組織や運営・地域とのかかわり、キャンパスの再編など創造を絶する大改革であります。限られた予算の中で、それぞれの大学の主体性により、運用できることになっていきますが、目標や計画に基づいた具体的な数値を出すことになっていくとのことです。そして、「〆をやった」のではなく、「どうなったのか」「どうかわつたのか」が問われることになるのです。

サービスの側(大学の教官)と消費者

副会長就任にあたって



副会長 石戸 大機

(昭和42年卒 函館市立深堀中学校長)

このたび、本部総会において副会長に選任され、新たな緊張感を味わっております。微力ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら会の発展に努めてまいりたいと存じます。私は新米教師のスタートを留萌市で迎えました。「留萌の雪は真横に降る」と言われる通り、北の日本の冬は厳しいものでした。そんな時、夕陽会留萌支部大懇親会の案内をいただきました。懐かしい函館の香りに引かれて出席をした私でしたが、参加者はわずかに五人ほどであつたと記憶しています。しかも大先輩ばかりで、何とも居心地の良い会で

した。酒が体内を温め始めた頃、誰言うとはなしに「函館に帰ってエくなあ」と繰り返えされる言葉を耳にして、とんでもない北の最果てにいるような錯覚におちいったものでした。

しかし、この時の光景が今でも時々、目に浮かんでくるのです。大学生生活や函館の街なみについての思い出話に花が咲く頃には、互いの温かさを感じてか全員がとて元氣になったものでした。そして酔いがまわって口数が少なくなつた頃また「函館に帰ってエくなあ」が聞こえてくるのでした。

それから三十八年、教師として最後の年を迎えました。同志という絆が人と人を結びつけ勇気と元氣を与える力をもっていることを大切に感じながら、副会長という役割を努めてまいります。皆様のご指導とご支援をお願いいたします。

「夕陽の心」に感謝



副会長 塩崎 設男

(昭和43年卒 函館市立八幡小学校長)

このたび、函館市小学校長会長に選任され、職能上ではありますが歴史と伝統ある夕陽会の副会長の大任を仰せつかりました。戸惑いとともにその重責に身の引き締まる思いしております。

川島会長をはじめ、本部役員の皆様方のご指導とご支援をいただきながら、任務をまっとうすべく微力ながら全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

昭和四十三年十月、上川管内の朝日町立糸魚小学校で教職の第一歩を踏み出しました。当時は広域人事で、多くの同期の仲間も全道各地に赴きました。町内、

近郊の学校に夕陽同窓が一人もおらず、大変な心細さを感じたものです。

その後、大雪青年の家での初任者研修会、層雲峡での教育課程研等で管内に赴任した同期との再会。そして、助言者として参加されていた夕陽同窓の先輩より温かい歓迎と激励の言葉をかけていただき、函館を遠く離れた地で、夕陽の心と連帯感の強さに感激し、励まされ、頑張れたことを思い出します。

三十六年間を振り返ってみると、窮地に立つたとき、進退に悩んだとき、喜びを得ることができたとき等、何時のときも夕陽同窓の「あつたかい叱咤激励」に支えられて歩んできたことを実感し、心より感謝しております。

今後は、私にとって「心のふるさと」である夕陽会の充実・発展のお役に立てよう努めてまいります。

副会長就任にあたって



副会長
中谷 匡利
(昭和42年卒 青森県立青森第一高等学校)

先般、本部幹事長藤川先生より、副会長就任の打診がありました時、多くの先輩諸氏のおられる中、何故私かと戸惑いを感じたのが正直なところでした。

でも、当青森県には、北海道に次いで卒業生が居りますので、本県の組織強化に少しでもお役に立てばと思ひ、この大役を仰せ付かることにしました。

本県では、ここ数年毎年全国支部幹事長会議を開催させて頂いております。この事により会員の出席増が図られると同時に、県内三支部の結束にもつながったものと感謝しております。この間、安島前会長はじめ本部役員の方々から多く

の御指導、御助言を賜りました。心から御礼申し上げます。

さて、卒業後間もなく初めて地元支部の総会に出席したことを、今懐かしく思い出しております。出席者の殆どが校長であり、退職後多くの方々が町村の教育長になられたことから夕陽会々員の底力を感じたものでした。すでに鬼籍に入られた先輩もありますが、このパワーを引き継ぎ、母校と夕陽会の発展に少しでも寄与することが、私に課せられた責務であろうかと思っております。

幸い、本県には、元県の教育委員長を永くお務めになられた奥寺先生が、本部副会長として御健在ですので、先生の助言も得ながら、川島新会長の御指導のもとに、前述の職責を果たす所存であります。皆様の御鞭撻を心よりお願い申し上げます。副会長就任の挨拶といたします。

三度目の正直！夕陽に恩返し



副幹事長
須藤 由司
(昭和52年卒 附属養護学校副校長)

このたび、附属養護学校副校長という立場から、副幹事長の任に就くことになり、その重責に戸惑い、緊張の連続であります。

夕陽会との出会いは、初任校の附属養護学校の時代に厚生部に所属させていただき、主として夕陽記念館の整備(掃除)や充実(退職会員から資料等をいただく)に関わりました。現在では、資料の充実などもより、国の登録有形文化財に指定されるなど、感動しております。この教職に就いたばかりの時に、夕陽会の伝統に触れることができ、大変勉強になりました。

再会は早く訪れ、三校目の附属中学校勤務の時に、組織部(当時は調査部?)の仕事に専念しておりました。二年に一度の会員名簿の作成は、最大の事業であり、多くの会員の方々にお世話になりました。今はパソコンを駆使しているとのこと。索引をカードで作成したことを思い出し、隔世の感があります。その名簿作成の中で、多くの先輩・後輩と知り合い、ネットワークができ、今日においても、何かと支援していただいております。

そして、何事も三度目。縁があり、夕陽会本部の仕事させていただくことになりました。所属部会等のない副幹事長でありますので、幹事長を補佐するとともに、本部専門部の補助や各支部との連携を図りながら、夕陽会に貢献する決意しております。今後とも、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



北海道教育大学副学長(函館校担当)
奥田 亨

函館校創立九十周年記念式典を終えて

四月から北海道教育大学副学長(函館校担当)となりました奥田 亨です。全国の国立大学が、この四月より国立大学法人として新たにスタートし、それに伴って従来の分校主事名称は副学長名に変更となりました。夕陽会の皆様にはこの会報にて初めてお目にかかることになりました。

私は京都府の北部、丹後という日本海に面した田舎で生まれ育ち、昭和四十八年十月に函館校に赴任しました。理科地学教室に属し、天文学を中心とした教育・研究に携わり、新課程では情報科学分野で計算機シミュレーションの授業・卒論指導に関わって来ました。函館校赴任が三十歳の時でしたので、もう北海道・函館の生活が人生の半分を超えることになりました。今では自分のふるさと以上に函館が大好きな人間となっています。函館校は、常日頃から、同窓会である夕陽会の皆様にはお世話になっているところですが、ここにあらためて感謝申し上げます。さらに今後のいっそうのご支援、ご協力をお願いする次第です。

さて、本年六月十二日の函館校創立九十周年記念式典・祝賀会には多くの方々のご参加とご協力のもとで盛大にかつ有意義に終了することが出来ました。とりわけ夕陽会の皆様には多数のご参加をいただき、本当にありがとうございました。また、翌週の十九日の夕陽会総会祝賀会にはご招待をいただきありがとうございます。また、師範学校時代の三十四年間、学芸大学から現在までの大学としての五十六年間、この九十年の歴史と大きな教師教育の資産の重みをつくづくと感じさせていたいただいたこの一ヶ月でした。それだ

けに、これからの函館校の将来構想プランを考えていく責任の重大さを感じる次第です。

新聞報道でもすでに明らかにされており、又夕陽会報においても前大坂分校主事や夕陽会前安島会長さんからも紹介されているところですが、函館キャンパスには、全学の新課程を集約・再編し、新たな視点から充実発展を目指す新学部構想を構想することになりました。私たちはこれを教養系学部構想と呼んでいます。現在その具体的な検討が全学のワーキンググループや函館校において進められています。この構想では教員養成の機能を、従来のような教員養成課程という形で維持することにはなりません。しかし、新制大学の共通理念であります「教員養成は大学で行う」という開放性の理念にのっとり、今までの教員養成における大きな財産を活かしながら、より特色をもった教員養成機能を引き続き発展させていく内容を持っています。現代的教養を身につけ、幅広い学問分野の総合的な教育研究を進め、今後の国際社会、高度情報化社会、生涯教育社会において重要な役割を果たす人材養成をめざす学部構想です。

今回の北海道教育大学をめぐる改革は、今までの改組とは質的に異なるものであり、とりわけ、函館校に関わっては、歴史的な大きな転換をめぐらすことになりました。函館校創立時の不屈の精神と努力を大いに範として、函館校もつ歴史的な文化の風土をいっそう高め、地域の人々との絆を大切にすこれからの大学づくりを進めたいと願っています。



菜の花畑に咲く

千葉県支部幹事長 長澤 美樹彦

(昭和44年卒 浦安市立浦安中学校長)

北海道の花は鈴蘭、言葉は、繊細、幸福は再び、千葉県の花は菜の花、花言葉は、快活。

花言葉のように夕陽会千葉県支部の活動も快活であればよいのですが、実質的な活動はほとんどなく、ここ十数年支部の集まりを開いていないのが現状です。

ただ本部との連絡は絶やさないようにと、支部長会議や幹事長会議には出席するように努めています。

過日、本部の土谷組織部長より会員名簿の発行に伴う動向調査の依頼があり、前回の名簿を見ましたところ、二百三十四名の方が千葉県に在住していることを改めて知り、驚いたところです。

せめて教職員だけでもと思い、県の教職員名簿を調べてみましたら、八十四名の方を確認することができました。夕陽会のメンバーの教職員は、昭和四十二年卒を筆頭に平成十五年卒まで間断なくいらっしやいますが、その人数を見ていきますと、昭和四十四年卒から平成元年卒までは七、八名くらいコンスタントに千葉県の教員として奉職していますが、それ以後は一、二名と減少しています。千葉県もようやくここ三、四年前から小学校の新規採用が増え始めたところですが、後輩がそれほど千葉県の教員に採用されていないのは、やはり母校の大学再編成

による影響が大きいのではないのでしょうか。さて、千葉県支部の活動は活発ではありませんが、個々に活躍されている様子を紹介いたします。

まずは、昭和三十二年卒で、全国的に有名なベネッセ未来教育センター所長の高階玲治先生、高階先生は、現在、私が在職しています浦安市の学力向上にお力添えをいただいております。五月の本校校内研修会でもお話を伺ったところです。

また、管理職で活躍されている方は、千葉市、習志野市、船橋市、松戸市、我孫子市、白井市、浦安市の七市、十四名のほりです。八十四名の教職員夕陽会員のうち、十四名も管理職がいることは「夕陽魂」ここにありの感です。

とりわけ嬉しいことに、昨年八月一日付けで、我が同期の西谷隆氏が夕陽会で初めての、千葉県内市町村教育長として浦安市教育長に就任したことです。

幸い浦安市には、四十六年卒の荒澤校長先生、平成元年卒の外山さん、鳩岡さんと夕陽会の仲間が四人もいますので、西谷教育長をしつかり支えていきたいと思っております。

北の地を離れ、地縁、血縁もなきこの菜の花の地に根を下ろし、花を咲かせ、また、咲かせようとしている仲間がいることも覚えていただければ幸いです。



網走連合支部便り

網走連合支部長 浪岡 康二

(昭和48年卒 上湧別町立上湧別中学校長)

平成十六年度の網走連合支部総会で支部長に選出されました。頼りにしていた先輩諸氏が退職し、卒業四十年代後半組が連合支部をリードしていくことになりました。この広大なオホーツクの地、厳しい自然の中で脈々と築いてきた伝統ある本会を、今ある勢力で行動する夕陽会を目指していきたいと考えています。

六月十九日の支部長会議、総会に出席させてもらいました。ご勇退されました安島前会長様にはこの網走の地に何度も足を運んでいただき会の運営等に大きなご示唆をいただきました。さらに、石北峠を越えてオホーツク斜面で活動する私達に、暖かい励ましの言葉をいただきました。本当にありがとうございます。

六百名を越す大懇親会は、同じ空気を吸い、同じ場所で学んだ者でなければ、醸し出せない雰囲気、安心感、充実感の中で盛り上がり、話に花の時間でした。同窓会の原点を改めて感じた一日でした。この雰囲気是非網走の会員に伝えたいとの思いで戻って参りました。

さて、当支部は現職会員は名簿上では百人を越えておりますが、何せ、車で一生懸命に走っても三時間以上もかかる広い管内です。同窓意識の高揚、仲間としての連帯感、実践交流という面では今一步という気がしています。ただ、幸いにも平成十年を過ぎてから新任者の管内への採用が切れ目なくあり、声を掛けるこ

とによって色々な場面での接点を多く持てるようになってきました。本年度も、十人もの新採用者が管内にて新生活をスタートしています。七月三日には、歓迎会を兼ねた若手研修会(実践発表会)を北見市で実施予定となっております。実践を積み重ねる若手、中堅、それを支える管理職が集い、楽しい一時を過ごすことになっていきます。

当連合支部は、四支部(網走、北見、遠軽、紋別)に分けて活動しています。一、活動方針

*本部分針を受け、支部活動の活性化を図り、会の躍進と発展に努力する。

二、活動計画

- (1) 同窓意識の高揚と組織強化
 - 広報活動(連合支部会報の発行)
 - 連合会員名簿(連絡網)の作成
 - 研修会の実施(若手、中堅対象)
 - 歓迎会の実施
 - 道東ブロック会議への参加
 - 総会・懇親会の実施
 - 福利、厚生活動の充実
- (2) 連合支部と各支部の連携強化
 - 各支部長と幹事長会議の開催
 - 支部会計と各支部会計の連携
- (3) 会計事務の確立と適正な執行
 - 課題も多くありますが、人と人との繋がりを大切にし行動する夕陽会として活動していきたいと思っております。

支部だより

前納会費納入会員名簿追加分

(平成十六年七月一日現在)

Table of members with columns for name, address, and date. Includes names like 横田達哉, 山田律子, 木村武正, etc.

夕陽会員計報

(平成十六年七月九日現在)

Main membership list table with columns for name, address, and date. Includes names like 瀬川勝衛氏, 永井豊氏, 江別市元町5の40, etc.

編集後記

懇親会の中で、新会員に安島前会長が贈った言葉、「教育的あせりは、子どもを捨てることになる一手を出しすぎたり、支援しすぎは良くない、子どもに考えさせる・結論を出させることも大事です。結果を急ぐとうまくいかないものです。気持ちにゆとりがないと焦りがうまれ失敗への坂道に一直線。焦りスパイラルでしようか。親も教師も、もう一度噛みしめ直しておきたい言葉です。」

◆「小学八其ノ学術を授クルノミナラス：同一の品行ヲ児童ニ習ハシムル」前号巻頭言の言葉です。今号前納会員への宛名シールは、どうしてもやりたいという子どもたちの声に負けて、たくさんの子どもたちに手伝わってもらいました。その結果、しわがよったり斜めに貼らさったりとミスがあります。申し訳ありません。お手元に届きましたら、小さな手の子どもたちが手伝ったものと、様子を思い描き、お許しください。

◆表紙写真は、昭和31年卒の須藤三男氏より提供していただきました。青から漆黒へと時の移ろいが見えるようです。次号は、トラピスチヌ修道院を取り上げる予定です。写真をお持ちの会員は、ご一報ください。

◆次号依頼「支部だより」は、東京支部と石狩支部の予定です。準備をお願いいたします。

(情宣部長 藤川 潔記 昭45年卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。
041-0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学教育学部附属函館小学校内 北海道教育大学夕陽会本部
電話番号(0138) 46-2235
夕陽会専用(0138) 34-5520
FAX番号(0138) 47-7376
題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)